

会派研修会実施報告書

会派研修の結果について、下記のとおり報告します。

令和3年8月31日

光市議会議長 中本和行様

光市議会会派 かいこう

代表者 木村 信秀

議員名 森戸 芳史

議員名 小林 隆司

議員名 早稲田 真弓

記

- 1 研修日時 令和3年8月2日（月） 10:00～13:00
- 2 研修場所 コワーキングスペース「ヒカリバ」
光市浅江1-4-14 3階
- 3 研修内容 広報からはじめる議会活性化
(株) 地方議会総合研究所（オンラインによるセミナー受講）
- 4 研修結果 別紙のとおり

研修結果

日 時	令和3年8月2日（月）10：00～13：00	
場 所	コワーキングスペース「ヒカリバ」3階	
講 師	広報アナリスト 吉村 潔	
テーマ	広報からはじめる議会活性化	

<研修の目的>

平成20年度を最後に休刊している議会広報紙について、発刊に向けて検討する広報広聴特別委員会が立ち上がった。会派から2名が委員となっており、紙面づくりの勉強と会派報の充実のためオンラインセミナーを受講した。

<研修概要>

「ありたい姿」をめざしての議会広報の動きや、議案審議から特集までの実践的な広報紙づくり、議会広報紙のリニューアルの動向など、すぐに参考にできる実践例が示されている。

<研修内容>

- 1 議会広報の動き
- 2 実践「議会広報紙づくり」
- 3 広報紙リニューアルの動きを探る

【議会広報の動きと実践議会広報紙づくり】

1 議会活動は市民に伝わっていますか。

愛知県知立市では市民2千人を対象に「市議会に関するアンケート調査」を行った。『評価する』は38.9%、『評価しない』が15.3%、『わからない』が45.5%であり市民への情報提供が不十分であることが解る。広報誌を作成するにあたり目標と方針を持つことが大切。ありたい姿を描き、編集方針や掲載ルールも必要。

2 読まれる広報に求められる要件とは？

読みたくなる（市民目線・対話力）、読みやすい（情報編集・見出し・デザイン）、手に取って開きたくなる（目を引く表紙・内容への興味）が基本要件。

・福岡県芦屋町議会では、砂浜で結婚式を挙げるカップルを表紙に登場させた。静岡県清水町議会では、見出しを大きく、どのように改正されたか分かり易く一行で表示。茨城県大洗町議会では、まちの子育て支援制度への声を掲載。

3 より多くの市民の理解・共感を得る広報へ（周知の広報から政策広報、対話の広報へ）

これまでは、会議の議事公開や調査研究活動、議会トピックス、啓発・告知などに偏りがちな周知の広報であった。今後は、政策の形成過程や首長への提言、意見募集などの政策広報、意見交換会や座談会、協働企画など対話の広報に変化していく必要がある。



・埼玉県所沢市議会では、減額修正までのプロセスを掲載。沖縄県北谷町議会では、定例会の争点をクローズアップ。新潟県燕市議会では、市民が関心を持つ案件を特集。

4 議会らしい決算・予算の広報に

まちの広報と差別化するため、『議会の評価や提言を掲載』、『決算と予算の連動を示す』、『総合計画との整合性を指摘』、『住民などの利害関係者の意見を掲載』、『近隣自治体との比較を行う』などが挙げられる。

・埼玉県小川町議会では、「激動の令和元年、進んだ変革」と題し、特集を掲載。長野県大町市議会では、「議会の提言はどう反映したか」と題し、議会意見の予算への反映を検証。大阪府河南町議会では、議案の討論の要約を掲載。

5 市民参加型の広報の事例

あらゆる世代やNPO、市民グループなどとの連動企画で、市政やまちづくりへ参加するきっかけづくりとなっている。

・岩手県奥州市議会では、新成人との対談や議会傍聴の体験を特集し、若い世代が地域に関心を持つきっかけにしている。埼玉県小川町議会では、学校再編をテーマに意見を募集し掲載し、地域課題を共に考える手法を採用。福岡県大刀洗町議会では、新年度予算に対する議会モニターさんの意見を掲載。その他に表紙のロゴやイラストを市民に依頼している事例がある。

【広報誌リニューアルの傾向を探る】

編集という視点で、『市民目線の議事公開』、『広報への市民参加』、『簡潔で分かりやすい』、『二次元コードを掲載しwebとの連携強化』が行われている。デザインという視点で、『本文のカラー化』、『ロゴの刷新』、『UD書体の採用』、『タブロイドからA4判』、『左開きの増加』などの傾向がある。

・東京都狛江市議会では、議会モニターとの座談会を特集。島根県浜田市議会では、質問内容をSDGsの17ゴールに分類し、web版議会だよりも作成。読者アンケートも実施している。埼玉県寄居町では、議員全員で50人アンケートに挑戦し、声を掲載。広報発行と合わせ広報委員手作りの動画も配信。北海道鷹栖町議会では、電車の週刊誌中吊り広告のように広報を作成。栃木県那須塩原市議会では、市民との接点を求め楽団とのインタビュー記事を掲載。徳島県勝浦町議会では、広報誌連動企画として若手農業家らと「儲ける農業」について対談し動画配信。岩手県奥州市議会では、市内在住外国人のインタビュー記事を掲載。

<所感と市政への反映>

会派かいこうでは、今回初めて民間企業のオンライン環境を活用し、オンライン講座を受講した。コロナ禍での委員会研修や、双方向の議会報告会や意見交換会の可能性を探る目的もあった。突然、配信が止まることもあったが、新型コロナウイルスに感染することも防げ、旅費も削減できるので、今後は積極的に活用していきたい。市議会で見聞交換会をオンラインで行う際は、通信不良などへの対策が必要である。広報紙に関しては、成功事例を積極的に取り上げていきたい。